

高知東道路

◆7月25日◆

大津一介良間が開通



開通を祝い、小笠原市長らがテープカット

建設工事が進められている高知東道路のうち、高知市の大津バイパスと介良の国道55号（南国バイパス）を南北に結ぶ一・一⁺の区間が七月二十五日に開通。高知市大津の現地に関係者の約百五十人が出席して開通を祝いました。

高知東道路（宗崎一介良間、延長七⁺）は昭和四十七年、国道32号の高知市一宮付近の交通渋滞緩和を目的に、国道のバイパスとして計画され、建設省土佐国道工事事務所が五十五年から工事に着手。その後、四国横断自動車道の南国インターチェンジからの接続道路としての役割も持ち、重要な

路線となっています。

開通したのは、大津バイパスから国道55号（土電電車軌道）を渡り国道55号に結ぶ区間で、幅員十四・五⁺の暫定二車線ですが、国道55号寄りの約四百⁺は四車線と広がっています。

この日は、午前十時から神事、

祝賀行事があり、十一時から小笠原市長らがテープカットを行なった後、四組の親子三代の一家が通り初めをして開通を祝いました。

この開通によって南北道路の少ない本市や高知市東部にとって、大きなメリットをもたらすものと見て期待されています。

また、高知東道路は一・一⁺が開通したことによって、全区間七⁺のうち二・四⁺が部分開通したことになり、四国横断自動車道の南国―大豊間が開通する六十二年度までに全区間の開通を目指して工事が進められています。

第5回ほたるの宿

21人が少年団体に

指導者に

少年団体の活動をより効果的に進めるため、子供と接する大人に育成理論や指導技術を身に付けてもらおうと、六月八日から七月二十三日までの十五日間、大塚地区公民館を主会場に少年団体指導者養成講座「ほたるの宿」が開かれ、二十一人が指導者の認定証を受けました。

この講座は、市教育委員会の主催で今年が五回目。十八歳以上の市民に参加を呼び掛けたところ、四十人の申し込みがありました。参加者の職業は会社員、公務員、自営業の人などさまざまですが、みんな子供の集団活動に関心を持

つ人ばかりで、毎週火・金曜日の午後七時から九時半まで、集団の基礎理論や安全教育と救急法などを熱心に学習。また、黒滝のキャンプ場ではテントの張り方、追跡ハイキングなど野外活動の宿泊研修も行われるなど、参加者は盛りだくさんのプログラムと意欲的に取り組んでいました。

◎次の皆さんが第五回「ほたるの宿」認定証を受けました（敬称略）
山田隆代（東崎）▼浜田義隆（廿枝）▼浜田和美（廿枝）▼坂本裕一（後免町）▼氏原浩二（亀岩）▼土居英隆（十市）▼浜田勝彦（久



救急法など熱心に勉強した

礼田）▼高野隆司（東崎）▼岩崎博（大埴）▼明神晃彦（大埴）▼島内幹夫（物部）▼池添左知子（大埴）▼浜田三十三（福生）▼小西淑恵（天地）▼中沢輝夫（浜改田）▼仙頭光彦（廿枝）▼比江森信子（久礼田）▼長尾陸夫（岡豊町）▼石川逸子（岡豊町）▼田中隆夫（浜改田）▼竹若俊幸（東崎）